

「技術士を知ろう！」&「技術者交流会セミナー」開催報告

1. はじめに

道南技術士委員会では、地域の担い手や技術水準の向上を目的に道南圏に根付いた技術者の育成に対して取り組みを行っております。本報告では①北海道本部【技術者のミライ研究委員会】が開催する「技術士を知ろう！」への参加。②北海道本部【青年技術士交流委員会】と【道南技術士委員会】の共同企画「～北海道の技術者の未来をつくる～技術者交流会セミナー」の開催内容について紹介いたします。



写真-1 札幌での事前ミーティング

2. 【技術者のミライ研究委員会】の出前講座

「技術士を知ろう！」について

出前講座「技術士を知ろう！」は、技術士制度の普及・啓発を図ることを目的として「日本技術士会」の中の北海道で活躍する若手の技術士を中心とした「青年技術士交流委員会」と「社会活動委員会 技術者のミライ研究委員会」が、学校の協力を得て、全国の教育課程にある生徒・学生を対象に技術士の仕事を紹介する講演会です。

※本年度は、道内高校、高専、大学などを対象に7回を開催予定しています。

開催当日は、気温の高い夏日でしたが、函館高専の3年生を対象に教室で講座を開始しました。北海道本部技術者のミライ研究委員会の三吉憲一技術士の司会進行で北海道の建設部門の技術士4名が順に講演しました。（※ミライ研活動レポートを参照。）

原田技術士は「建設コンサルタントにおける技術士の仕事～高専OBが地元で活躍！！～」というテーマで登壇しました。はじめに、高専とその後専攻科へと進学した頃の自らを振り返り、当時どのようなことを考えていたかを述べられた上で建設コンサルタント、海岸を専門とする技術士の仕事を紹介され、学生の皆さんへのメッセージを述べられました。

3. ①「技術士を知ろう」への参画

8月6日に開催された国立函館工業高等専門学校での「技術士を知ろう！」出前講座で道南技術士委員会より、原田技術士（建設部門）が発表の機会を頂きました。この度の登壇にあたり、札幌で実施した事前ミーティング（リハーサル）やコラボイベントの打合せなどにも積極的に参加させて頂くことで、セミナーの企画・運営手法や活発なミーティングの雰囲気に触れることができ、企画・運営への参画がもたらす希少な成長機会を実感できました。



写真-2 講演する原田技術士

原田 雄一：技術士(建設部門)

年齢 35 歳、函館高専専攻科を卒業後、現職の(株)東
 鵬開発で課長として勤務。専門とする科目は、[河川、
 砂防及び海岸・海洋]、[鋼構造及びコンクリート]

講演後に参加した学生から寄せられた質問と回答
 について抜粋して紹介します。

- Q：地元就職することのメリットは何ですか？
 A：自分が生まれ育った大好きな町で、自分の好き
 な仕事をして地域に貢献できることが自分にとって
 は喜びであり、ベストな選択だと思っています。
 Q：これからもずっと函館で仕事を続けますか？
 A：今後も退職まで地元で頑張るつもりです。(笑
 Q：学生のうちにやっておいた方が良いことはあり
 ますか？
 A：人がやりたがらないような事、面倒だと思っ
 てる事を一歩踏み出してやってみるように頑張ってみ
 たら良いと思います。
 Q：課長の立場で大変だと思うことや、やって欲し
 いと思うことはありますか？
 A：自分のチームは 20 代の部下で編成されてい
 るので、仕事を進めながらも、部下の成長を優先して
 考えるように留意して職務についています。
 Q：学生の間に学ぶことは、将来役立ちますか？
 A：自分が学ぶことで、無駄になることはありません。
 必ずどこかで活かされますので頑張って下さい。

今回の取り組みを通して、将来技術士を目指す学
 生が一人でも増えることは、わが国にとって小さく
 とも確実な発展の一步であり、地元に残ることを選
 択する技術者が増えることは、地方都市における担
 い手確保という大きな課題に対して効果的な取り組
 みになると考えています。このような活動を継続し
 て企画・運営されている技術者のミライ研究委員
 会の皆様に敬服いたしますと共に、道南技術士委員
 会に登壇の機会を頂きましたことを、この場を借りて
 お礼申し上げます。また、函館高専の教授であり、
 道南技術士委員会の幹事としても活躍されてお
 ります澤村教授におかれましても、このような機会を
 ご提供頂きましたことをお礼申し上げます。ありが
 うございました。

**4. ②～北海道の技術者の未来をつくる～「技術
 者交流会セミナー」について**

「技術士を知ろう！」講演会終了後は間髪を入れず
 に、昨年に続き第 2 回目となる北海道本部 青年技
 術士交流委員会(※以下、青技交) & 道南技術士委員
 会のコラボレーション企画である交流会を開催いた
 しました。

本企画趣旨は、若手技術者に楽しみながら、学ん
 で頂ける機会の提供を図ることにありますので、参
 加者を 45 歳以下の若年層に限定して募集しました。

今年度の交流会テーマは、グループディスカッ
 ションによる「函館観光案内のロールプレイング
 ゲーム」を実施しました。

・令和元年 技術者交流会セミナー
 開催場所：函館高専 1F 第 2 講義室
 参加者：道南技術士委員会 15 名
 北海道本部 青技交 5 名
 Start～ 15：05 青技交の紹介
 15：05～ 16：30 グループ分け&ディスカッション
 16：30～ 16：55 グループ発表
 16：55～ 17：00 投票及び優勝グループ決定
 17：00～ 17：10 総評

青技交メンバーのご紹介



**写真-3 左から三吉技術士、千葉技術士、
 仁田技術士、小澤技術士、木本技術士(敬称略)**

このゲームは、「中国から函館観光に訪れた体力
 自慢の肉体労働者 12 名」が 1 泊 2 日の旅程に満足
 して、「周囲に勧めたい。」「リピートしたい。」と感
 じられる旅行をプロデュースするものです。但し、
 旅行中に悪天候に見舞われてしまい、旅程の変更を
 余儀なくされてしまいます。この変更旅程について
 決められた時間内にグループディスカッションを行

い、最後にグループ発表し、自分たち以外の班に投票することで最優秀グループを決定するものです。

令和元年 第2回
技術者交流会セミナー 【グループディスカッション シナリオシート】

- ① 函館観光案内をテーマに、ロールプレイングを行って頂きます。皆さんはツアーコンダクターとして旅行者が満足して、「リポートしたい!」、「周囲の人へ勧めたい!」と感じる観光をプロデュースしてください。
 - ② 旅行者は、「中国の田舎から来た、体力自慢の肉体労働者12人です。」村の皆で積み立てして念願の北海道旅行へ来ました。
 - ③ 予定の旅行コースは下記の函館観光モデルコースの1泊2日です。
 - ④ ただし、旅行中に悪天候に見舞われてしまい、旅程の変更が必要になりました。(「わ」はオプション ※季節は問いません)
 - ⑤ 敏腕ツアーコンの腕を見せて、変更した旅程を発表してください!
- ※1 詳細なルールは、実現可能である範囲を想定して検討して下さい。 ※2 ツアー会社の規模やスタッフ数の設定は自由です。
※3 旅程変更の参考となる下記観光リストを利用しても良いですし、オリジナルで考案して頂いても構いません。(スマホ検索OK!)

【ルール】: グループディスカッションで決めた旅程を発表して頂きます。発表時間は5分! ファシリテーターは発表できませんが、発表者は複数人でもOK!

図-1 グループディスカッションシナリオシート

今回は、くじ引きにより5名ずつ4班に分かれてディスカッションを行いました。青技交の方々には、ファシリテーターとして班を先導して頂きました。

グループワークで得られる気づきは、多種多様ですが、課題に対して代替策を講じ、目的を達成しつつ、付加価値を見出すという。取り組みについて理解を深めて欲しいという狙いがありました。



写真-4 グループディスカッションの様子



写真-5 グループ発表の様子(道南若手が担当)

グループワークに使用できる1時間半は、あっという間に終わってしまいましたが、ファシリテーターの青技交の皆様のおかげで各班シナリオ作成は完了しておりました。各班5分程度の発表を経て、最優秀グループを投票しましたが、実力が伯仲しており票が割れてしまいましたが、課題解決のプロセスを学ぶとても貴重な機会となりました。参加者の感想について紹介します。

・自社以外の方とチームを組んで、一つの課題に取り組むということに最初は不安がありましたが、自分では思いつかないような意見がたくさん交わされ、とても新鮮で楽しい時間を過ごすことができました。コミュニケーション・自発性・発表力が身につく良い勉強の場だと感じました。

村本 穂乃佳(技術士補)

・今年で2回目となる交流会ですが、今回は青技交の方々からファシリテーターとなってグループディスカッションを先導して頂きました。

無難な旅程・アクティブ重視の旅程・考え方を180度変えた旅程の班もありました。

どの班も一つ一つの工程に根拠や理由があり、皆さんコンサルタントなんだと実感しました。今回非常に楽しみながら参加することができましたが、ただ楽しむだけでなく、これから仕事や発注者との打合せ協議を行う上で必要な発想力や提案力を鍛える良い機会だと思います。今後また開催して頂けるのであれば、ぜひ参加したいです。

山崎 佑磨(技術士補)

普段の業務から離れて OFF-JT で学ぶことができる希少な機会となりました。

5. 懇親会・反省会

交流会終了後は、道南技術士委員会の布村代表が合流して、食事とお酒を交えながら、日ごろの業務や技術士会の企画などについて意見交換しました。



写真-6 懇親会の様子

2回目のコラボレーション企画も大成功で終わることができました。青技交の皆さまに深く感謝すると共に、道南技術士委員会として本共同企画の持続的発展にまい進したいと考えています。